



20年間勤務した女性職員が昨年9月に辞めて以来、補充がないまま事務局は事務局長一人体制が続いている現状を憂慮、チェック機能の低下を指摘している。そのうえで、①事務局を常勤2人体制に戻すこと②事務局長の選任は公募制で行うこと③報酬は有償ボランティアを基本とし、時給制を排除しない、などを骨子としている。これに対して町田会長は検討させてほしい、と答弁し、後日、企画委員長に検討を指示した。

銭谷氏を副会長に選任

総会はこの後、学校創立150周年(2023年)に向けて発行する『続先蹤録』に関して、町田会長から「続先蹤録編纂準備特別委員会」設立とその統括責任者として銭谷眞美氏(昭和43卒)を新たに副会長に迎えたいという提案があった。異議なし、の声があり、拍手で銭谷氏の副会長就任を了承した。

さらに会則改正に基づき、郷土秋田の再生と新たな発展のために動き出す機関として「郷土創生特別委員会」の設置も提案され、両特別委とも委員長が読み上げられて承認された。既に動き出している「150周年記念誌編集準備特別委員会」とあわせ、特別委の委員長は次のとおり。
【150周年記念誌編集準備特別委員会】▽担当副会長 高島清子(昭和33卒)▽委員 ◎高橋秀晴(昭和50卒)、伊藤史(平成3卒)、加賀谷真澄(平成1卒)、佐藤正臣(平成8卒)▽学校委員 今井智幸(副校長)、物部長幸(平成6卒)、木村司(昭和57卒)、金内哲(昭和61卒)、深井富

美子、中嶋修子、坂本公正(平成6卒)

【続先蹤録編纂準備特別委員会】▽担当副会長 銭谷眞美(昭和43卒)▽委員 ◎畠山茂(昭和43卒)、武藤富士雄(昭和43卒)、豊嶋司(昭和44卒)、相馬高道(昭和51卒)
【郷土創生特別委員会】▽担当副会長 三浦廣巳(昭和44卒)▽委員 ◎佐藤裕之(昭和55卒)、松岡正樹(昭和30卒)、石井仁(昭和42卒)、藤盛節子(昭和44卒)、高橋秀晴(昭和50卒)、竹内伸文(平成2卒)
 ◎は委員長。

総会に引き続き、銭谷氏が「日本の文化と秋田の文化力」と題して記念講演を行った(講演要旨は同窓会ホームページに掲載)。講演後の同窓会設立100周年記念祝賀会はおおよそ330人の参加者であふれ返った。昭和16年卒92歳の最年長、古村潤二郎さんから平成21年卒の若い女性会員まで、大正、昭和、平成の3世代が一堂に会してグラスを傾けながら母校の思い出話等に花を咲かせた。会場からは終始笑い声が絶えず、締めくくりに応援団OB紫紺の会のリードで「校友会歌」を大合唱してようやくお開きとなった。



銭谷眞美副会長略歴

昭和48年 東北大学教育学部卒、文部省入省
 平成10年 大臣官房審議官
 平成15年 文部科学省生涯学習政策局長
 平成16年 初等中等教育局長
 平成19年 文部科学事務次官
 平成21年 東京国立博物館長、現在に至る

14年ぶりに支部長会議開催

昨年の国民文化祭に合わせ開催した全国支部交流会が好評であったことから、同窓会設立100周年記念の総会にあわせ、「連携強化」をテーマに支部長会議を開催した。

14年ぶりの開催となったが、津軽、大館など地域支部10支部、県庁、秋田市役所など職域支部4支部の代表と本部役員等27人が参加し、支部活動の現状と課題、支部から同窓会本部への要望などについて協議した。

各支部からは、支部総会や行事の参加者は限定的になっている、支部報の発行は重要、若い会員が少ない、職域支部の転勤者情報を地域支部にも送ってほしいなどの報告・要望が出された。県庁支部から

は、会員が多いので寄付で協力できる、全国大会に出られるよう頑張つてほしい!と母校への声援があった。

支部との連携強化は同窓会活動の活性化のため重要であり、各支部同士の情報交換の場も必要であるとの認識で一致し、支部長会議は今後3年ごとに開催することにした。

(企画委員会)

